けんけんパ

２０１６年度第号
２０１７年５月９日
（火）

宮城県労働組合総連合女性部
発行責任者　永田　淳子
〒九八〇－〇〇二二
仙台市青葉区五橋一丁目５番13号
ＴＥＬ　〇二二－二二一－七〇〇二

第27回　宮城はたらく女性のつどい（2月26日）

マウスコミュニケーションで安倍「働かせ方改革」を許さない世論を広げよう

今年のつどいは、仙台市青葉区・仙都会館で開催されました。全労連女性部事務局長の大西玲子さんを講師としてお招きし、“安倍政権「働かせ方改革」は女性労働者をどこに導くのか ホントウの働き方改革を 有期契約・パートの人たちの悩みは？職場の仲間の支援は？”と題してお話しいただき、40名の参加者は熱心に聞き入りました。

挨拶する川名直子実行委員長と講師の大西玲子さん

はじめは、昨年話題になったＴＶドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」。ヒロインの家事の報酬は19万４千円、内閣府の調査資料によれば、無償労働の賃金は家事をしているときに外で働いたとしてもらえる額、専門職に置き換えたとしてもらえる額、いずれも女性の方が低く、かつ専門職に置き換えると時給が下がってしまうとのこと。世界一短い睡眠時間で２９９分の無償労働、「ワンオペ育児」をこなして、周囲に謝り続けて働くのが日本の女性たちの現状です。日本のジェンダー平等は進まず、２０１６年のジェンダーギャップ指数は１４４か国中１１１位と惨憺たるもの。複合的要因で広がる経済格差と低い政治参画が原因です。

安倍「働き方改革」の実態は「働かせ方改革」。女性差別を温存し、雇用を劣化させてきた歴史をすすめるもので、均等法制定時の「だまし」の焼き直し、１９９５年、当時の日経連が打ち出した「新時代の日本的経営」の完全形を目指すものだということです。全労連はすべての働く人々を対象に、性別や雇用形態をはじめ合理的な理由のないすべての差別を禁止し、同一労働同一賃金、均等待遇原則を実現すること、ＩＬＯの判断基準を検討の基本においてガイドラインを策定することを求めています。

非正規労働者の増大が組織されない労働者、つまり「物言わぬ労働者」をつくり、それが労働者を「モノ」扱いするブラック企業をはびこらせました。

大西さんは、８時間働けば暮らしていける賃金をかちとるために、困難でも集まって話し合い、愚痴を磨いて要求にしていくことの大切さを語り、マスコミにはマウスコミュニケーションで対抗して安倍「働かせ方改革」を許さない世論を広げ、労働契約法第18条を活用して有期雇用を規制しましょうと結びました。

熱心に聞き入る参加者

休憩時間には、宮城県高等学校・特別支援学校教職員組合の富川洋子さんによるリフレッシュ体操を行いました。短い時間で効果があったと好評でした。

後半の各職場の交流では、低賃金・重労働で９万人の保育士が不足している保育現場の実態、年金裁判を闘う年金者組合、介護の現場からは国の貧困な高齢者施策、非常勤で支えられているハローワークの現状、子どもたちに笑顔で向き合えないような時間外労働、持ち帰り残業、短い睡眠時間といった教育現場の状況が話されました。大西さんの講演のサブテーマにもあった有期契約の労働者の雇止め問題について、東北大職員組合から報告があり、改めて労働者全体の問題であることを確認しました。

宮城で働く女性が手をつないで、様々な問題の解決に向けてとりくむ出発点となるよう、来年もまたこのつどいに多くの参加があることを願い、閉会しました。

（女性部長　国公　永田　淳子）

３．３ピースアクションみやぎ２０１７

冷たい風に負けずに熱くコール　赤い花を持ち元気にパレード

ひな祭の３月３日、「女の平和」ピースアクションみやぎ主催の“３．３ピースアクションみやぎ２０１７”が、仙台市・市民の広場で開催され、３２０名が参加しました。宮城県労連女性部からも２名が参加しました。

集会の合間、合間に、参加者が手をつなぎ輪になって、「政治を変えよう！」「野党は共闘！」「戦争ＮＯ！安保法制ＮＯ！」「ＹＥＳ！９条　憲法守れ！」「ほんとに危険な共謀罪」「森友学園とんでもない！」「レッドカード　レッドカード　安倍政権！」と吹き荒れる冷たい風に負けない、熱いコールを繰り返し行いました。トークでは民進党、日本共産党、社民党の議員が発言し、「安倍政権のもとでズタズタにされた私たちの暮らしを野党共闘で取り戻そう」と訴えました。

集会終了後は、参加者がそれぞれ赤い花を持ち、元気に一番町商店街をパレードしました。

（事務局長　宮城一般　菅野　和美）

レッドカード安倍政権！声高らかに

２０１７年国際女性デー第５７回宮城県集会

拡大し、深刻化する格差

多様性を認めて応援する、つながることが大切

今年で第57回を迎えた国際女性デー宮城県集会は、３月８日エル・パーク仙台６階ギャラリーホールで開催され、１１１名が参加しました。

オープニングにみやぎうたごえ協議会の岡村さんによる「アフリカの子」の独唱があり、出入口近くではフェアトレード商品（チョコレート、コーヒー、紅茶）の販売もありました。

来賓として、宮城県労連の高橋正行議長、日本共産党のふなやま由美仙台市議会議員からご挨拶があり、ふなやま氏からは衆議院比例区より立候補することの決意表明もありました。

講演は、森下麻衣子さん（オックスファム・ジャパン　アドボカシー・マネージャー兼事務局次長）を講師にお迎えし、「ひろがる格差と貧困～日本でも、世界でも～」と題してお話しいただきました。

オックスファムの成り立ち、事業（活動の４つの柱）、

３・16春闘統一行動

道行く人がシュプレヒコールに耳を傾ける様子に力を得た思い

この日は朝から、ストライキ支援や宣伝行動が随所で行われました。18時15分からは、元鍛冶丁公園で決起集会が行われ、約70名が参加しました。女性の参加者も多く、「自分たちのこと」としてとりくむ関心の高さが感じられました。集会では昼間行われた、それぞれのたたかいの報告と、宮城一般から今春闘の決意が語られました。

その後、シュプレヒコールを上げながら一番町アーケードから仙台駅前までデモ行進を行いました。退社の時間帯だったため、道行く人々がコールに聞き入ったり、プラカードの文字を追っている様子がよくわかり、問題意識を共有していることに力をもらったような気がしました。

（常任幹事　宮城一般　佐々木　政枝）

日本での活動の様子を分かりやすく説明いただいたほか、発展途上国への支援のあり方についての提言もいただきました。

「オックスファムアボガシーレポート」では、『極度の格差は経済成長そのものを阻害する要因となる』として、２０１４年には富裕層85人と低所得者36億人分の資産と同等であったものが、２０１７年には８人対36億人となり、格差がどんどん広がっていることを指摘しており、タックスヘイブンなどで富裕層が節税していることによる「税収損失」は年間31．９兆～57．２兆ドル（２３１０～３５２０兆円）、特にアフリカの金融資産では30％、１４０億ドルの財政予算が失われており、その資産で４００万人の子どもの命が救え、また学校の先生を雇うことができるというお話がありました。

講演する森下麻衣子さん

想像力・感情・現場を大切に

また、２０１６年「世界ジェンダー・ギャップ報告書」で日本は１４４か国中１１１位、無償労働時間の男女比が日本では４．８倍（スェーデン１．３倍、アメリカ１．６倍）、福島の被災地支援の現場でもシングルマザーやＤＶ被害者で女性世帯の手当支給が低かったという事実、貧しい国だけでなく今の日本でさえも女性や弱者に対する支援が弱く、ますます深刻な格差社会になってしまっていると話されました。

講演の後、フロアからの「婦人参政権70周年を迎えたが、まだまだ女性蔑視の風潮がある」との発言に対して、森下さんは「今の女子大生は『20代、30代で働いている人は無理しているように見える。自分は働きたくない。専業主婦がステータス』という風潮がある。それぞれ世代によって女性観が違っているが、その多様性を認めてそれぞれを応援する、つながることが大切である。」とまとめました。

最後に、国際女性デーアピール『いのちとくらしを守る平和な社会、女性と子どもたちの権利のために、憲法を守り、原発再稼動を止めさせましょう』を拍手で採択して、閉会しました。

（副部長　医労連　阿部　文子）

（炊き出し＆何でも相談会改め）
50回を迎えた復興まつり

震災の直後から宮城災対連・東日本大震災共同支援センターがとりくんできた「復興まつり」（当初は「炊き出し＆何でも相談会」）が、３月26日、50回目を迎えました。

今回は、「新蛇田コミニュニティまつり」と銘打って、石巻仮設住宅自治連合推進会の協力も得て、石巻市蛇田の新立野１号公園で行われました。女性部から２名が参加しました。

一日も早い復興を改めて思う参加者たち

まずまずの天気に恵まれ、豚汁、お餅、フランクフルト、飲み物、綿あめ、玉こんにゃく、バザーなどのお祭りらしい雰囲気に、地域のみなさんの力強い太鼓と素敵な踊りが花を添えてくれました。地域の方々のたくさんの参加があり、にぎわいました。

終わりの会では、石巻自治連会長や県外の参加者から感想が語られたほか、これまで豚汁作りで絶大な支援をいただいている庄内産直センターなどに対して感謝状が贈られました。参加者は、改めて大震災からの一日も早い復興をという思いを強くしました。

51回目は５月21日（日）の予定です。

（事務局次長　東北大職組　高橋　京）